



科学技術庁

国立防災科学技術センター

ニュース

雪害実験研究所長に就任して

中村 勉

雪害実験研究所(雪害研)は、2度目の勤めである。1回目は研究室長として、昭和41年から新庄支所へ行くまでの8年間である。もっともこの間、43年から2年間はカナダへ留学させて戴いているので、実質は6年間ということになる。新庄支所長職には9年と2ヵ月あまり在職したことになるが、この間良き部下に恵まれ、かつ地元からのバックアップに支えられ、思う存分に力を出しきれた事は、望外の喜びであった。雪害研に12年6ヵ月振りに戻った今、毎日が驚きの連続であるが、設立後、20余年を経ると建物をはじめ、あちこち手を入れなければならないところが目につく。



雪氷防災の研究は、他の自然災害の研究分野と少しばかり異なるところがある。それは、雪氷防災研究に対して、地元が常に熱い目をもって注目していることと、その成果がすぐ応用もしくは利用されねばいけないし、また、されることを意識して研究を進めなければいけないことである。また、雪氷そのものの性質の理解が雪氷防災につながるもので、その種の研究にも大いに力を注がねばならない。

雪害研では、長年の念願である低温特殊実験棟の建設など庁舎の増改築を願っており、この特殊実験棟の中で、世界でもまだ誰も手がけた事のない「表層雪崩の発生機構」の実験研究を行いたいと考えている。これには、多くの皆様方のご理解と

ご支援なくしては不可能である。また、これからの日本の科学技術の進むべき方向を考えると、いままで以上に国際的視野に立った研究と国際交流が重要となってくる。

自分自身、いささか若さが減ったことを感じる今日この頃でもあるが、焦らずに、所員一同一丸となって、雪氷研究そして雪氷防災研究に前向きにとりくんでいきたいと考えている。雪害研のスタッフはもちろん、新庄支所のスタッフとも相協力して行きたいと思っているが、幸いにも、新庄支所長には畏友の木村忠志博士が就任されたので心強いことである。

また、御縁があって、長岡に住むことになったので、雪氷の基礎的研究はもとより、克雪研究を北陸地方の研究者を初め、雪国一円の方々と相協力し合っ、進めて行きたいと考えている。皆様方の一層の御支援を初め、御指導、御鞭撻を願っているところなのである。

新庄支所長に就任して

木村 忠志

4月1日付で新庄支所長を拝命して、19年間お世話になった長岡の雪害実験研究所(雪害研)から、新庄に移りました。雪害研では、歴代所長のご指導の下に、第2研究室長としてのびのびと仕事をさせていただきましたが、今度は御礼奉公のつもりで勤める所存でございます。



〈本号の主なニュース〉

科学技術研究功績者表彰受賞	〈2面〉	相模灘で海底地震観測	〈4面〉
創意工夫功労者表彰受賞	〈3面〉	昭和62年度科学技術週間行事実施結果	〈4面〉
昭和62年度業務計画の概要	〈3面〉	4月の地震活動(関東・東海地域)	〈4面〉